

ふるさとってなんだろう？

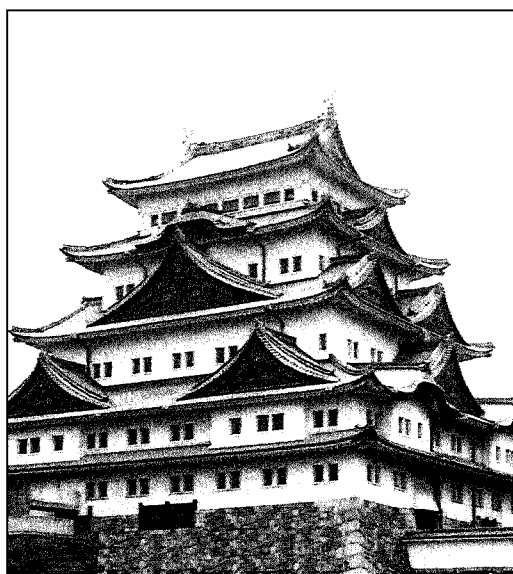
～もうちょっと接客よくならないかな～

社会学科 1 年

門 大聖



私は名古屋から都留に来ました。名古屋の中でも私の住んでいた名古屋東区は、文字通り市の東端に位置する区です。名古屋は地下鉄やバスなど交通の便がよく、ちょっとした高級住宅地です（私の家はおんぼろアパートですけど）。買い物や遊びなど大体のことは近場でこたたりるし、名古屋の中心地に行こうとしても市内均一で二百円の市バスや、五分おきぐらいに電車が来る地下鉄があります。非常に便利なところなんです。それに対して正直いって都留は不便です。何をやるにも都留では物足りません。本気で買い物や遊びを楽しもうとしたら、東京に何千円、何時間もかけていかなければなりません。交通の便は悪いし、お店もよろしくない。そう、実は私が都留に来て一番驚いたことは、お店の店員の態度のぞんざいなことです。もちろん、中にはとても感じのいいお店もありますが、全体的に接客がいい加減だと感じます（でも、かなしいかな、態度の悪い店員の半分ぐらいはきつと都留文科大学の学生）。お店に入って「いらっしゃいませ」がないくらいはしよつちゅうです。もうちょっとなんとかならないものでしょうか。あと都留で気付くことは地域色の存在です。名古屋はいろんなところから人が集まってくるところですから、あまり独自の文化とか近所付き合いを感じることはありません。家は赤味噌なのに、となりは白味噌



名古屋城

文大生の 故郷と都留 ⑥

憎なんてことも多々あります。ですから都留のお祭りとか、親戚、ご近所、消防団や自治会といった存在に物珍しさを覚えました。なんか、ずいぶん勝手なことを書いてしまいましたが、私は都留が好きです。生活の不便さのかわりにある自然がいい。川にアマゴは泳いでいるし、緑に囲まれ、空が高い。名古屋では絶対ない。都留ではどちらを向いてもすぐに山にぶちあたりますが、名古屋では家が続くのみ。都留の方が生き物の力を身近に感じられるのです。とてもいいことです。

でも、「ふるさと」って今まで述べてきたようなことは、本当はあんまり関係がないのかも知れません。ふるさととは、子どもから大人になるまでの期間を過ごした思い出だと思うのです。私は大学生になった今、緑あふれる環境で暮らしていますが、帰郷するところは都市です。しかし、川が澄み渡る田舎だとか、コンクリートジャングルだとかはどうでもいいのです。ふるさととはただの懐かしい土地。なぜ懐かしいか。一人の人間が人格を作り上げた場所だからです。この世に生まれて、今まで約二十年生きてきて、この間にほぼ人格は完成したと思います。もう二十年だし、まだ二十年でもあります。この先、心に多少の変化が訪れるかも知れませんが、いや、きつと訪れるでしょうが、それでも、大きな変化はないでしょう。はつきり線を引くのは難しいけれども、だいたい高校時代には揺るぎない原形のようなものができていました。名古屋でも広大な自然と触れ、たくさんの人と交わりました。都会の中でも自然はとてもしたかで、きれいでした。そして私のまわりには、好きな人、嫌いな人がたくさんいました。そんな一つの世界が私のふるさとして、なかなか話が市の広報紙的な方向からえらいずれちゃいましたが、ようするにふるさとってのは、まわりの人々次第ってことです。そして、今都留に住む私のまわりには好きな人、嫌いな人いっぱいいますが、学生や地元の人も含めて好きな人の方がきつと多いので、地方行政についてとか、学園都市についてとかいうつもりはないけれど、私は都留が好きです。